

2017年7月24日

立教大学国際学術研究交流制度
2017年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	現代心理学部・教授
	氏名	林 もも子
受入学部・研究科・研究所		現代心理学研究科
招へい 研究員	所属・職	Professor/Head of Department, Department of Psychology, Faculty of Science and Technology, Middlesex University 協定の有無：無 所在国：英国
	氏名	Antonia Bifulco
招へい期間		2017年7月11日～2017年7月20日（10日間）
研究経費		376,420円

2. 滞在中の活動

来日日および離日日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例) ○○ついて研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

年月日	活動内容
2017年7月11日	来日
2017年7月15日 14:30-17:30	現代心理学部主催 公開講演会 国際シンポジウム「アタッチメント・スタイル面接の臨床現場における活用」。立教大学池袋キャンパス 7101 教室。参加者 66 人。講演。
2017年7月16日 15:00-18:30	アタッチメントの研究者集会—ASI（アタッチメント・スタイル面接）の創始者・研究者の Bifulco（ビフィルコ）先生を囲んで - 立教大学池袋キャンパス 16 号館第一会議室。参加者 14 人。講演と研究指導。
2017年7月17日 15:00-16:30	アタッチメント研究の方法と実践 立教大学新座キャンパス 322 教室。参加者 20 人。講義。
2017年7月20日	離日

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

7月15日 現代心理学部主催 公開講演会 国際シンポジウム「アタッチメント・スタイル面接の臨床現場における活用」。立教大学池袋キャンパス 7101 教室。参加者 66 人（臨床心理士、医師、看護師、保健師、教員、児童相談所心理職、シスター、大学院生、一般）。ビフィルコ先生からの、アタッチメント理論概要、成人への臨床応用についての講演の後、活発な質疑があった。現場の臨床家から教育現場での活用の可能性についての質問、また、大学院生から研究についての質問などが寄せられた。その後、吉田先生による産後うつ病の人を対象とする臨床応用、池田先生による産前のアセスメントへのアタッチメントの応用と追跡調査結果から見えてきたパートナーの役割などの講演があり、その後、シンポジストどうし、およびフロアとの間で活発な議論がかわされた。アタッチメント・スタイルのアセスメントが今後臨床現場で活用される可能性や研究の発展についての展望がかいまみえた時間となった。

7月16日 アタッチメントの研究者集会—アタッチメント・スタイル面接の創始者・研究者のビフィルコ先生を囲んで - 立教大学池袋キャンパス 16 号館第一会議室。参加者 14 人（臨床心理士、医師、看護師、保健師、大学院生）。ビフィルコ先生から新たに開発された子ども用のアタッチメント・スタイル面接の紹介や老年期の人に対するアタッチメント・スタイル面接の実施結果の研究報告があり、研究の広がりについて学んだ時間となった。その後、大学院生や臨床心理士、医師などからアタッチメント・スタイル面接を用いた研究の途中経過の報告や研究結果の発表があり、それぞれについて、ビフィルコ先生は適格かつサポートイブなコメントをくださった。熱心な議論により予定時間を超過したが最後まで全員が参加した。若手、ベテランを問わず、参加した研究者にとって大変実り豊かな時間だった。

7月17日 アタッチメント研究の方法と実践 立教大学新座キャンパス 322 教室。参加者 20 人（臨床心理士、看護師、大学院生）。ビフィルコ先生から、青年期の人を対象とした、虐待に重点を置いた世代間伝達についての研究結果の講演があり、その後、大学院生たちから活発な質問が出て、ビフィルコ先生はそれらについて丁寧に答えてくださった。イギリスにおける親からの虐待やネグレクトと、青年期の子どもの行動障害や精神障害との関連についての重要な研究結果から大学院生たちは大いに刺激を受け、様々なことを考える時間となった。授業時間終了後も、有志の大学院生数人が残ってビフィルコ先生に質問をしていた。



7月15日の国際シンポジウムの模様